

事例19 ニンニクの作付けで収益の向上

十和田市 豊平

協定面積 田13ha 協定参加者 11人

- 豊平集落は市の中心部から北に位置し、対象農地は八甲田山の麓の斜面に広がる水田です。集落では水稻にニンニク、ネギ、長芋等の野菜を組み合わせた複合経営が主体となっています。
- 転作用を有効活用するため高収益野菜であるニンニクの作付拡大に積極的に取り組んでおり、現在協定団地内のニンニクの作付けは1.6haまでひろがっています。交付金を活用して、マルチ巻き取り機やロータリーカッターを導入して栽培管理を容易にしています。
- 収益を上げるためには、土作りが基本となるため、畜産農家と連携し、集落内のほとんどの農地に堆肥を施用しています。また、既存の耕作放棄地の解消にも取り組んでおり、耕畜連携による自然循環型農業をめざして、現在牧草を作付けしています。
- 今後は導入した機械を有効に共同利用できるような、作業体系や省力化を検討していきます。



豊平集落の耕作放棄地の解消